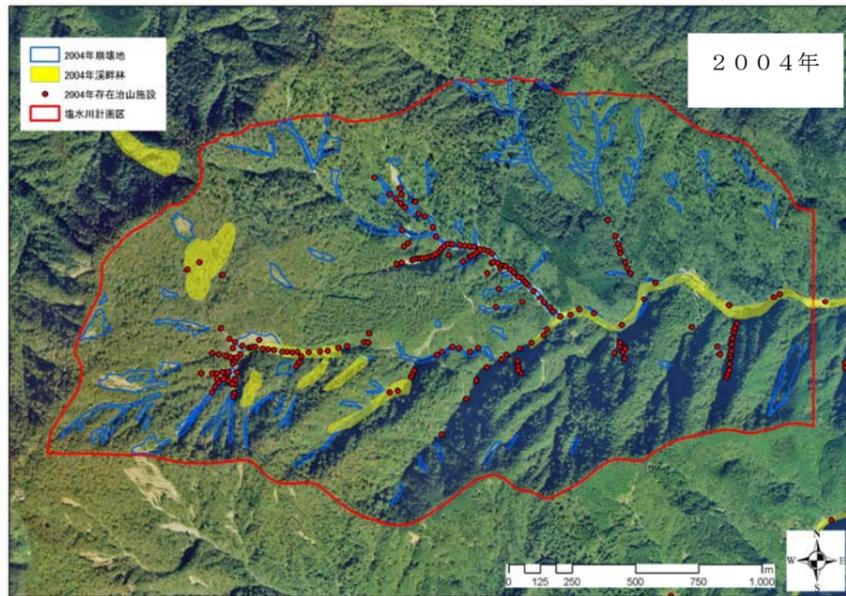
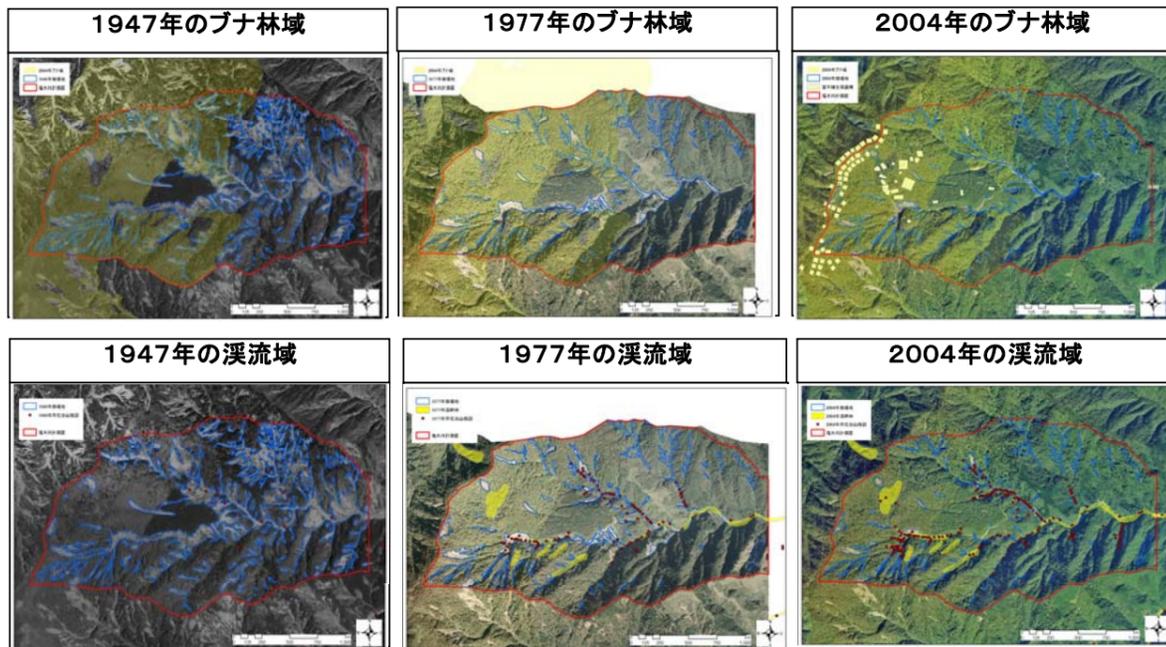


# 塩水川流域の現状



1947年の航空写真では崩壊地が多くみられ、治山・砂防事業が多く実施されてきた。現状では、崩壊地は少なくなっているが、ブナ等の高木が繁る高標高域の自然林内では林床がニホンジカの採食圧により裸地化しており、急激な土壌侵食が起きている。



## 平成 18 年度の検討課題

### (1) 手法の改良・開発

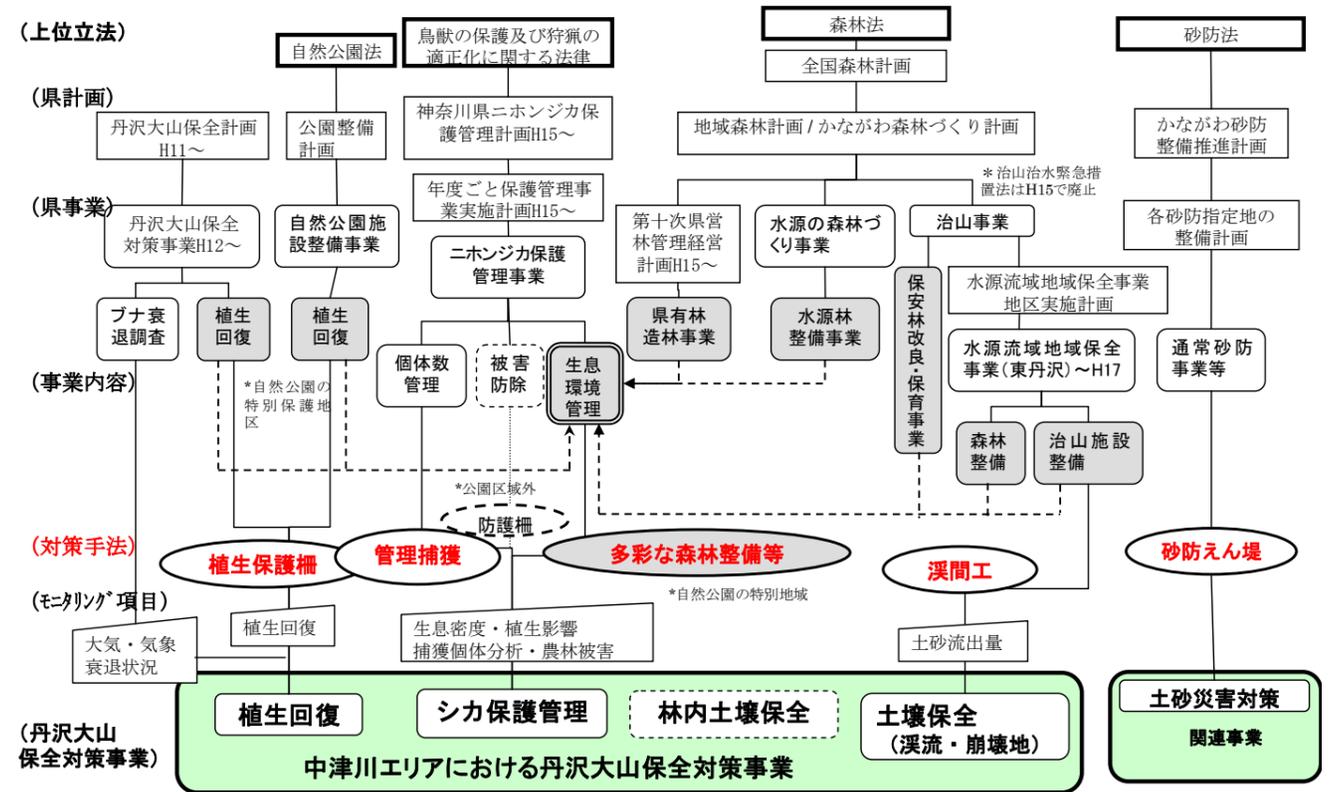
- 従来工法の改良も含めて、流域保全のためにより効果的な土壌保全対策手法の検討
- 部材は特注品ではなく、汎用性のある材料の使用を前提とし、また、丸太チップの使用は慎重に検討。
- モニタリング調査の具体的な計画および評価手法の検討。

### (2) 流域総合保全推進モデルと策定ガイドライン

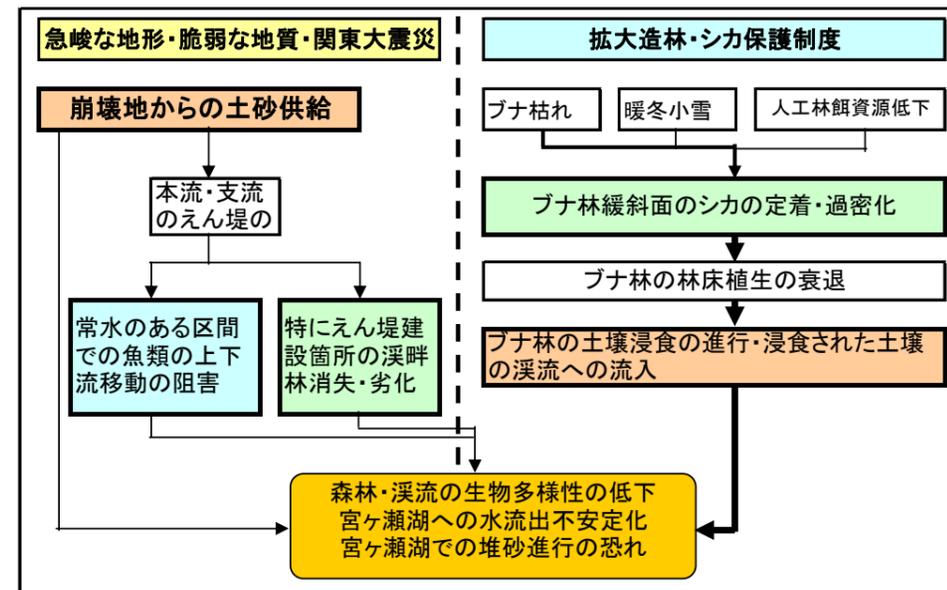
- 土壌流出の根本的な原因であるシカ過密化解消の具体策の工夫。
- 事業相互の関係性に基づいた具体的実行方法とその考え方の整理。

## □中津川エリアの保全対策

現行の丹沢大山保全対策事業は、県の「丹沢大山保全計画」のほか、主に「自然公園法」「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」「森林法」に基づく事業により構成されている。つまり、同じ地域内で、根拠法令と事業実施体系を独自に持つ複数の事業が同時に実行されている。



## □流域問題構造の整理の例－要因関連図の作成－



流域の土壌侵食対策を検討する上では、まず関連する要因を整理し、その原因や結果的に生じる問題を特定した後、対策可能な解決すべき課題を抽出し、課題相互の関連性に基づいて事業の実行順序や配置を検討する。